

ひょうご

県知協

NEWS

〈兵庫県知的障害者施設協会機関紙〉

発行 一般社団法人

兵庫県知的障害者施設協会

〒651-0062

神戸市中央区坂口通 2 丁目 1-1

兵庫県福祉センター5階 502 号室

TEL (078) 862-6026

FAX (078) 862-6082

E-mail: hyogo-kenchikyo@dance.ocn.ne.jp

発行責任者 蓬 菜 和 裕

印刷所 交友印刷株式会社

活動報告

一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会 会長 蓬菜 和裕



いよいよ、平成 29 年度が始まろうとしています。会員の皆様方におかれましては、社会福祉法人改革への準備は万全だと思いますが、省令等において未確定の部分があり対応に苦慮されておられることと存じます。

社会福祉法人制度改革では、社会福祉法人に対する指導監督の見直しがあります。兵庫県におきましては、平成 27 年度に「社会福祉法人に対する指導指針」の検討が行われてきましたが、社会福祉法の改正が遅れ、具体的な検討を行うことができませんでした。しかしながら、昨年 11 月に政省令が公布され、指導指針の検討が再開

されました。検討委員会は老人、知的、身体、養護の種別団体から各 1 名、学識経験者として、弁護士 1 名、公認会計士 1 名、そして行政 1 名の計 7 名の委員で構成されています。検討項目は、①評議員選定手続き、②役員報酬、③関連当事者取引、④随意契約、⑤社会福祉充実計画策定手続き、⑥市の指導監査事務への支援、⑦経営に課題を抱える法人に対する指導、⑧不祥事への対応等となっています。指導指針は 3 月下旬に素案のとりまとめが行われる予定です。

平成 29 年度は、新しい社会福祉法の施行される年ですが、当協会におきましても重要な年度でもあります。平成 28 年度の総会で承認された 5 割増しの会費で予算執行する年なのです。会費値上げの理由として、事務局体制の強化と事業の充実という 2 点を挙げました。事務局体制の強化におきましては、9 月より新事務局長と新事務員の採用と決裁区分や事務分掌等の見直しを行い、会計処理の透明性と事務局業務の標準化に努めてきました。事業の充実については役員会等において、研修会や部会の在り方、地区会と協会との連携強化について検討しています。具体的な事業につきましては、総会において皆様方のご意見をお聞かせ願いたいと考えています。

最後に虐待の問題です。現在、当協会では希望される施設に権利擁護委員会のメンバーを派遣し、虐待防止の研修会を実施していますが、虐待事案の報告が協会に届いています。「虐待とは思わなかった」と虐待を起こした職員の声が心に残ります。以前、研修で次のような話を聞きました。『あなたは利用者に対し暴力をふるったことはありますか』という質問にはほとんどの職員が「いいえ」と答えるが「支援の効果を上げるために体罰を与えたことはありますか」と質問すると「はい」という答えが増える』。20 数年前の話です。「虐待とは」思わなかった」という声は、現場で働く職員の意識改革が進んでいないという結果だと言えるでしょう。虐待の根絶は難しいとは思いますが、法人、管理者、職員により多くの虐待の芽を摘むことは可能だと思います。虐待の芽は今この時点でも発芽しているかもしれません。「対岸の火事」、あるいは「私は大丈夫」ではなく、自分たちの問題として考えることが重要だと思います。



神戸市知的障害者施設連盟
事務局長 正 心 徹

神戸市知的障害者施設連盟の平成 28 年度の下半期は、定例となった事業を中心に行いました。以下に紹介してまいります。

1. 福祉関係機関・施設長研修会

- (1) 平成 28 年 11 月 1 日（火）～ 2 日（水）岐阜県（社福）美谷会 美谷の里、（社福）西南陽光福祉会 緑の里）を見学
- (2) 来賓 2 名を含む 18 名の参加

2. 関係法人連絡会

- (1) 平成 29 年 2 月 3 日（金）新春福祉関係機関意見交換会に久元神戸市長がご出席、ご講演に始まり、意見交換会を行った。
- (2) 社会福祉法人を取り巻く課題等についての意見が多数出された。今後も、不定期ではあるが開催する予定である。

3. こうべ障害者音楽フェア 2016 ジョイフルコンサート

- (1) 平成 28 年 12 月 23 日（金）開催。
- (2) 松端連盟会長が実行委員長となっており、連盟として、チケット 50 枚を購入。希望施設に配布した。

4. ふれあいステージ

- (1) 平成 29 年 1 月 28 日（土）開催。約 500 名参加。職員部会より 8 名の応援協力。
- (2) 来年度は、平成 30 年 1 月 27 日（土）神戸文化ホール中ホールにて開催の予定。

5. ひっぱリーグ '17（綱引き大会）への協力

- (1) 平成 29 年 2 月 5 日（日）10:00～16:00 グリーンナアリーナ神戸
- (2) 例年どおり、運営に協賛している

6. 研修会の開催「高齢・重度者の暮らしを支えて」（神戸市手つなぐ育成会との共催）

- (1) 平成 29 年 3 月 16 日（木）連盟会員向け・17 日（金）育成会会員向け
- (2) 講師 国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園
施設事業局 地域支援部 地域支援課長 古川 慎治 氏
- (3) 両日で、約 100 名以上の参加を予定。

7. その他

- (1) 養護学校・特別支援学校進路指導主事との合同会議を今年度 4 回開催しました。
- (2) 神戸市保健福祉局所管課との合同会議を今年度 1 回開催しました。
- (3) 6 月 6 日（月）福祉避難所の設置運営に関する協定の調印を神戸市との間で交わした。

次に、白坏職員部会長以下、多数の部会役員の協力により成果をあげている、職員部会の活動を報告します。

1. 全体

- (1) 神戸市知的障害者施設連盟役員会、及び施設長会への出席。
- (2) 「共に歩む会」引率チームのサッカー大会、ソフトボール大会への送迎・広報。
- (3) 1 月 28 日 手をつなぐ育成会と共催の「ふれあいステージ」スタッフとしての参加（打ち合わせ等にも出席）。

2. 研修委員会

- (1) 10 月 19 日 栄養士研修会／味の素グループ大阪ビル
テーマ別レシピについて（高齢者食・ローカロリー食）。《参加者：21 名》
- (2) 11 月 22 日 地域生活チャレンジ研修／あすてっぷ神戸
神戸市知的障害者施設連盟・神戸市地域支援機能強化事業受託事業者との共催
事例発表、グループワーク「親なき後を見据えたチーム支援」。
ファシリテーター：明石基幹相談支援センター兼障害者虐待防止センター相談員 後藤 謹武 氏
《参加者：60 名》
- (3) 12 月 9 日 看護師研修／神戸市立中部在宅障害者福祉センター
テーマ：「知的障害者の高齢化・重度化における支援の在り方」。
講 師：関西福祉大学 谷口 泰司 氏
《参加者：33 名》
- (4) 2 月 9 日 栄養士研修会／社会福祉法人くすのき会 ひふみ園
テーマ：「障害の理解と支援の基本」
講 師：流通科学大学教授 藤本 次郎 氏
《参加者：21 名》

3. スポーツ委員会

- (1) 8 月～10 月 神戸地区ボウリング代表選手強化練習（全 9 回）
- (2) 10 月 21 日～25 日 第 16 回全国障害者スポーツ大会希望郷いわて大会出場
代表選手 2 名（特別支援学校生徒）引率者：新緑福祉会 1 名、特別支援学校 1 名
- (3) 11 月 13 日 草フットサル大会／目的：職員同士の交流 《参加者：10 法人 80 名》
- (4) 3 月 4 日 絆リレー大会（利用者レクリエーション）／しあわせの村。
「タイムレース」と「ぴったんこレース」の 2 種目開催。
- (5) 3 月 12 日 みんなのボウリング大会／六甲ボウル
レクリエーション的な要素も含め、全国障害者スポーツ大会「愛顔（えがお）つなぐえひめ大会」の
選手選考会も兼ねている。

阪丹但地区の報告

副会長 丸山 和幸
(芦屋翠ホーム)

阪丹但地区は平成 28 年度の進捗状況としましては引き続き「福祉・介護従事者キャリアアップ研修事業補助金」を活用した職員の皆さまの資質向上や交流・情報交換を目的とした研修会を実施しております。

前回の第 1～2 回の報告に続き、第 3 回目としましては 11 月 15 日に三田市総合保健福祉センターにおきまして「苦情解決について」の研修を実施いたしました。実はこの前日に同内容の研修が姫路市で開催されたにも関わらず、講師である奈良県、有限会社レイズの増田知乃様も研修内容に工夫していただき「ワールドカフェ方式」というスタイルでの研修もすすめていただきました。聴講する研修だけではなく、それぞれの事業所「困りごと」や個々の支援員の「悩み」などをお互いに聴き、また話し合える貴重な時間となりました。

第 4 回目は平成 29 年 1 月 24 日に同じく三田市総合保健センターにおきまして、「財務研修」ということで昨年度に引き続き、公認会計士の前原啓二氏にご講演いただきました。次年度より施行される社会福祉法人制度改革に向けた留意事項について丁寧に説明され、受講者の方も真剣な眼差しで聴講されておられました。早速、事業所に戻られて法人の「社会福祉充実残高」を算定された方もいたようです。

第 5 回目は平成 29 年 2 月 18 日には阪神福祉事業団様との共催でなくさ学園におきまして「公開事例発表会」を開催しました。3 事業所から現場の第一線で活躍する支援員の皆さんの日々の取り組みを緊張しながらも発表されていました。また自閉症 e サービス代表の中山様から発表者への講評や最新の T E A C C H についてのお話しもあり、発表者にとっても参加者にとっても大変実りのある発表会となりました。

各研修会では最後にアンケート調査を実施しております。受講者の方から多数のご意見、ご提案をいただいております。次年度も皆様に参加したくなるような研修会を企画していきます。乞うご期待ください。また、これまでの研修会でご協力いただいた、たくさんの方々には、協会として大変感謝しております。今後とも当地区協会に温かいご支援の程、よろしくお願い申し上げます。





会長 宮崎 泰生
(大地の家)

播淡地区では、今年度もスポーツ、研修、研究、文化の4つの事業を開催致しました。

①スポーツ委員会

平成 28 年 5 月 27 日加古川運動公園陸上競技場にて第 28 回ばんたん親善運動会を実施しました。参加者 1043 名。当日は天候にも恵まれ、参加された利用者の皆様も競技を楽しまれていました。

②研修委員会

毎年 2 回の研修会を企画し、第 1 回目は平成 28 年 7 月 7 日小野市うるおい交流館「エクラ」で行いました。「知的障害を伴う自閉症児・者における問題解決に向けた行動支援」という内容で、自閉症児・者の行動特性の基本的な理解から、実際の問題解決の支援場面の映像を通して、経験年数の浅い職員を中心に 98 名の参加者が問題行動解決のための支援の全体像を学びました。

第 2 回目は平成 28 年 10 月 28 日、同じく小野市うるおい交流館「エクラ」で市立加西病院精神科部長 久保田康愛氏をお招きし、「知的障害を持つ人たちの心の育ちについて～保護者も含めた支援のあり方」という内容でご講義頂きました。参加者は 81 名と多数の参加を頂き、実りのある研修会であったと思います。

③研究委員会

平成 28 年 8 月 24 日～25 日、ニューサンピア姫路ゆめさきにて、第 30 回播淡地区施設長・職員一泊研修会を開催しました。今回は「本人主体の権利擁護を考える～本人の願いを尊重する支援とは～」を研修会のテーマとして、学識者・当事者・施設管理者と幅広い視点からテーマに沿ったご講演をいただき、パネルディスカッションでは活発な意見交換がなされ、参加者 94 名にとっても有意義な情報共有・交流の場になりました。

④文化委員会

平成 28 年 11 月 22 日、姫路文化センターにて第 25 回ばんたん・ゆうあい文化祭を実施しました。参加者 1092 名と大賑わいで、利用者ひとり一人がステージ上で生き生きと演技に夢中になり頑張っておられました。

今年度、職員代表者会の会長として力不足ではあったと思いますが、各事業を取りまとめる委員長・副委員長の皆さんが計画的に委員会を運営して頂き、大きな問題もなく予定通り事業を実施することが出来ました。播淡地区においては、参加者が 1000 名を超える事業もあり、各事業が滞りなく終えれた事は、施設長会・副会長をはじめ、各委員の皆様の責任ある活動のお陰だと心からお礼を申し上げます。

各員会ではすでに来年の検討を行っており、着々と準備を進めております。次年度もこの職員代表者会が活発に機能出来るように考え、副会長と共に盛り上げていきたいと考えております。ありがとうございました。

生産活動・就労支援部会施設長及び職員研修会報告

赤穂精華園授産寮 篠塚 隆司

大寒波が少し緩んだ平成 29 年 1 月 27 日、生産活動・就労支援部会施設長及び職員研修会をあすてっぷ神戸にて開催いたしました。障害のある人も無い人も、共に地域の中で当たり前に働き普通に暮らせる社会を目指し、就労支援の具体的な事業の在り方を実践発表という形式をとらず、本年度も引き続き他府県より講師を招聘し、目から鱗の切り口で新たな就労の事業展開のヒントとなるようにという部会員の思いで企画する事になりました。

さて講演に先立ち、兵庫県健康福祉部障害福祉局障害者支援施設整備・就労対策班主査の藤原基弘様より行政説明が行われました。放課後等デイサービスにおいて、利潤を追求し支援の質が低い事業所や受動的な支援のみ行っている事業所の増加、就労継続支援 A 型においては生産活動の内容が適切でない事業所や、利用者の意向にかかわらず、全ての利用者の労働時間を一律に短くする、助成終了と合わせて退所させている等の不適切な運営事例が増加しているという指摘があり、その見直し案や H29 年 5 月以降、対象労働者を雇い入れる場合に対する支給要件の変更等についての説明や情報提供がありました。

講演では、琵琶湖の北西部に位置する滋賀県高島市にある社会福法人虹の会 アイリス施設長 田村きよ美様より「移動商店街『ぎょうれつ本舗』を通しての地域課題に対する役割」をテーマにご講演をいただきました。

深刻な過疎化・高齢化等の地域課題から誕生した移動販売。また、その拠点となる店舗「MIZU café cocco」で実践力をつけた障害者の働く場としてステップアップしていく事例。積極的に地域に出向き、サービスを受ける側から提供者になる側へという障害者の意識の変化。行政や企業、県内の就労支援事業所を巻き込んで役割を分担した仕組みづくり、地域貢献の一翼を担う事業として県からも「滋賀の縁」として認証され、福祉や社会の未来にバトンを繋いでいく思想と実践。苦労話も織り交ぜながら忘れてはならない方針や横の連携の大切さをご教示くださいました。

田村様の講演は、親しみやすく自然体でしたが、内に秘めた熱い現場の活力を感じ、狭い会場ながら参加者も惹き込まれ、大変参考になったと質問等も多く聞くことができました。最後に「まずはアクション。どうしたら良いかを考えよう。将来の生活を支えるために、少しでも良くなるようにという思いで頑張りましょう。」と結ばれました。



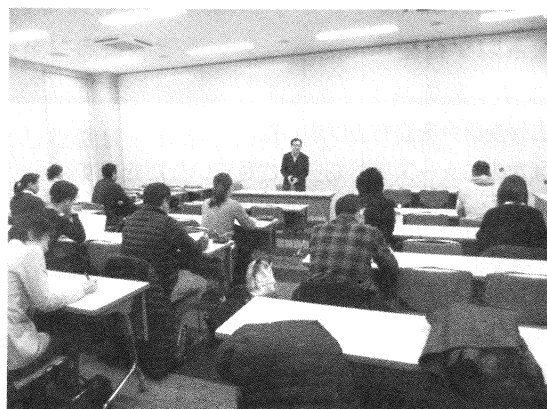
平成 28 年度 相談支援部会 研修会・情報交換会

相談支援部会 部会長 益田 毅

相談支援部会では、平成 29 年 1 月 27 日（金）に社会福祉センターにおいて研修会及び情報交換会を行いました。

研修会では関西福祉科学大学社会福祉学部社会福祉学科教授の津田耕一先生から「障害者ケアマネジメントについて」というテーマでお話いただきました。改めて「障害者ケアマネジメントの基本」を振り返ることができ、サービス等利用計画の作成等、日々の業務に追われる中でも大切にしていかなければいけないことを、参加者が再認識できたのではないかと思います。

情報交換会では 5～6 人のグループに分かれ、「相談支援を行っていくうえで大切なこと」「相談支援体制を作っていくために必要なこと」をテーマにグループディスカッションを行いました。各グループの発表から、他事業所の状況を聞くことができる場となるとともに、ディスカッションをする中で、一人ひとりの生活を守っていくという思いを持っていくことの必要性や本人主体・本人中心で支援を考えていくことの大切さを再確認できる場になっていたように思います。



新委員会の紹介

人材確保委員会委員長

社会福祉法人 宝塚さざんか福祉会 辻井 善弘

現在、障害者福祉の分野は、人材の確保に危惧しています。措置制度が廃止され、支援費制度が導入されて今年度で 14 年目を迎えましたが、その間、少子化のあおりと同時に、各教育機関における社会福祉学課程の減少や撤廃も余儀なくされる現状で、若い世代に障害者福祉を啓発する機会が減ってきています。

障害を持つ人たちは、親亡き後、それを支える心ある人材の確保が不可欠です。

今年度より、当協会は「人材確保委員会」を新たに立ち上げました。ここでは、障害者福祉を地域の方々や学生等すべての人たちに知っていただき、人が生きるその根底にあるインクルージョンを軸とした社会構築の実現に向けた活動を行います。

今、支援にかかわっている一人ひとりがその役割を担い、その面白さを伝え、永続的な人材の確保を実現させたいと願います。

編集 後記

今年度から新たに人材確保委員会・広報委員会を立ち上げました。

人材確保委員の活動内容や動きなどは次のニュースでお知らせさせていただきます。

広報委員会では、待望の当協会のホームページを立ち上げ、研修の情報や各部会・委員会の活動内容など提供できればと思います。

一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会 HP アドレス

<http://www.hyogo-kenchikyo.or.jp/>

今後とも、ご支援宜しくお願い致します。

(T.S)